

2019年度

精神看護学実習

[表紙 1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表 【 枚】
- 2 日々の体験記録 【 枚】
- 3 事前学習 課題 I 【 枚】
- 4 課題レポート I 【 枚】

学生証番号： K F _____

学生氏名： _____

実習期間： 月 日 ~ 月 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名： _____

看護学科 3 年 専門教育科目

2019年度

精神看護学実習

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 1 出欠席表(リーダーのみ) 【 枚】
- 2 実習計画表 【 枚】
- 3 アセスメント用紙1 【 枚】
- 4 アセスメント用紙2 【 枚】
- 5 看護過程展開用紙 【 枚】
- 6 プロセスレコード 【 枚】
- 7 その他：パンフレット・メモ他【 枚】

学生証番号： K F _____

学生氏名 ： _____

実習期間 ： 月 日 ~ 月 日

実習施設名： _____

担当教員名： _____

指導者名 ： _____

看護学科3年 専門教育科目

授業科目名：精神看護学実習

単位／時間：2単位／90時間

対象／開講：17KF／3年生 通年

担当教員：大貫 美奈子、尾近 千鶴、室伏 圭子

ディプロマポリシーとの関連：○該当する ◎特に該当する

- ◎ 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- ◎ 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- ◎ 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- ◎ 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- ◎ 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- ◎ 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- ◎ 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- ◎ 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

【目的】：

精神の健康問題を抱える対象が、その人らしく問題解決ができるように関わり、その過程の中で生じる対象の反応や自己の抱いた感情を整理しながら患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。更に地域における精神障害者の生活の実際を知ることができる。

【中核目標】：

- I 精神の健康問題を対象がどのように体験して、それがどのように日常生活に影響を及ぼしているかを理解しながら、必要な看護過程を展開し、対象の反応から自己の実践を評価することができる。
- II 精神の健康問題を抱える対象に関心を寄せ、精神看護について理解することができる。
- III 対象となる人々と関わり、対象の理解を深めると共に精神保健福祉法及び障害者総合支援法に基づくノーマライゼーションの重要性と多職種との連携の必要性を理解することができる。
- IV 精神の健康問題を抱える人を把握し、必要な医療を理解することができる。

中核目標 I 精神の健康問題を対象がどのように体験して、それがどのように日常生活に影響を及ぼしているかを理解しながら、必要な看護過程を展開し、対象の反応から自己の実践を評価することができる。

行 動 目 標

1. 生活行動様式の枠組を活用して対象を全人的にとらえ、記述することができる。
2. 精神の健康問題が日常生活にどのような影響を及ぼしているかに気づき記述することができる。
3. 1・2をふまえ、対象のアセスメントを具体的に行うことができる。
4. 1～3をふまえ、対象の健康な部分やストレス(強み)は何かを見出すことができる。
5. 1～4をふまえ、対象を主体とした適切な看護計画を立案することができる。
6. 具体的に立案した看護計画を効果的に実践することができる。
7. 実践した看護を対象の示す反応から評価することができる。
8. 評価した内容を再びアセスメントし、看護計画の修正を行うことができる。

中核目標 II 精神の健康問題を抱える対象に関心を寄せ、精神看護について理解することができる。

行 動 目 標

1. プロセスレコードを活用して、対象との関わりの中で生じた気がかりな場面を振り返ることができる。
2. 発表場面において、患者紹介及び場面状況を他者にわかりやすく説明することができる。
3. 自己の関わりがどのような影響を与えるかについて考察することができる。
4. 他者の意見から自己の思考及び行動傾向を知り、自己理解を深めることができる。
5. カンファレンスにおいて、考えたこと、感じたことを他者に表現することができる。

中核目標 III 対象となる人々と関わり、対象の理解を深めると共に精神保健福祉法及び障害者総合支援法に基づくノーマライゼーションの重要性と多職種との連携の必要性を理解することができる。

行 動 目 標

1. デイケア及び就労継続支援B型事業所において参加見学し、精神保健福祉法及び障害者総合支援法に基づくノーマライゼーションの重要性を理解することができる。
2. デイケア及び就労継続支援B型事業所において参加見学し、対象となる人々の社会的立場を理解することができる。
3. 「その人らしさ」を考え、必要となる生活支援サービスについて考えることができる。
4. 多職種との連携の必要性や看護と福祉の役割を理解できる。
5. 継続医療の重要性を理解することができる。

中核目標 IV 精神の健康問題を抱える人を把握し、必要な医療を理解することができる。

行 動 目 標

1. 各種療法の目的を理解することができる。
2. 各職種の役割を理解し、看護との関連と相違について考えることができる。
3. 対象の生活及び治療環境から権利擁護について考えることができる。
4. 精神保健・医療・福祉の現状を理解しつつ、理想となる精神看護を考えることができる。
5. 精神看護における看護師の役割を理解し、述べることができる。
6. 精神看護における信頼関係の必要性について体験をもとに述べることができる。

精神看護学実習評価表

学生証番号		実習場所:	病院						病棟		
氏名		実習期間:									
実習出欠席:【出席: 日】【欠席: 日】【遅刻: 日(時間)】【早退: 日(時間)】											
合計点の計算方法: I~IV【よい=3点、ふつう=2点、要努力=1点】 V 【よい=4点、ふつう=2点、要努力=1点】 ※他者評価は実習指導者が行う※			自己評価			他者評価			教員評価		
			良い	ふつう	要努力	良い	ふつう	要努力	良い	ふつう	要努力
I. 看護過程											
1. 生活行動様式の枠組を活用して対象を全人的にとらえ、記述することができる。											
2. 精神の健康問題が日常生活にどのような影響を及ぼしているかに気づき記述することができる。											
3. 1・2をふまえ、対象のアセスメントを具体的にを行うことができる。											
4. 1~3をふまえ、対象の健康な部分やストレングス(強み)は何かを見出すことができる。											
5. 1~4をふまえ、対象を主体とした適切な看護計画を立案することができる。											
6. 具体的に立案した看護計画を効果的に実践することができる。											
7. 実践した看護を対象の示す反応から評価することができる。											
8. 評価した内容を再びアセスメントし、看護計画の修正を行うことができる。											
II. プロセスレコード及びカンファレンス											
1. プロセスレコードを活用して、対象との関わりの中で生じた気がかりな場面を振り返ることができる。											
2. 発表場面において、患者紹介及び場面状況を他者にわかりやすく説明することができる。											
3. 自己の関わりがどのような影響を与えるかについて考察することができる。											
4. 他者の意見から自己の思考及び行動傾向を知り、自己理解を深めることができる。											
5. カンファレンスにおいて、考えたこと、感じたことを他者に表現することができる。											
III. デイケア及び就労継続支援B型事業所・退院支援・地域支援						※	※	※			
1. 参加見学し、精神保健福祉法及び障害者総合支援法に基づくノーマライゼーションの重要性を理解することができる。						※	※	※			
2. 参加見学し、対象となる人々の社会的立場を理解することができる。											
3. 「その人らしさ」を考え、必要となる生活支援サービスについて考えることができる。											
4. 多職種との連携の必要性や看護と福祉の役割を理解できる。											
5. 継続医療の重要性を理解することができる。											
IV. 必要な看護・医療											
1. 各種療法の目的を理解することができる。											
2. 各職種の役割を理解し、看護との関連と相違について考えることができる。											
3. 対象の生活及び治療環境から権利擁護について考えることができる。											
4. 精神保健・医療・福祉の現状を理解しつつ、理想となる精神看護を考えることができる。											
5. 精神看護における看護師の役割を理解し、述べるることができる。											
6. 精神看護における信頼関係の必要性について体験をもとに述べるることができる。											
V. 態度											
1. 精神看護の場に関心を示し、意欲的及び積極的に実習に取り組むことができる。											
2. 日々の実習場面での体験を学びとして、翌日以降の実習内容に生かすことができる。											
3. 他者にわかりやすく、自己の考えや学びを表現することができる。											
1) 事前学習及び課題レポート【課題レポートは教員のみ】											
2) 日々の体験記録【学びと振り返り及び今後への課題が示されていること】											
3) 中間面接及びグループ面接											
4. 自己判断で行動せず、報告・連絡・相談を適切に行うことができる。											
5. 既習内容を日々の実習に生かしつつ、新たな学習に取り組む姿勢をもつことができる。											
			合計点								
自己評価	サイン										
他者評価	サイン										
教員評価	サイン										
総合評価			S・A・B・C・D・E								

【実習方法】

1. 事前・事後学習

- 1) 事前学習【事前レポート】:「自己の振り返り」【1600字以上】
- 2) 事後学習【課題レポート】:「自分自身への気づき」【実習終了後・1600字以上】

2. 学習方法

- 1) 病院実習では、受け持ち患者との関わりを中心に学習する。
- 2) 自己の体験や考えたことや感じたことを大切にし、日々のカンファレンスで共有学習を行う。
- 3) 自己の傾向に気づき、他者に与える影響を考えながら自己理解と他者理解について学習する。
- 4) 精神病院における「鍵」の意味について考えながら、その重要性を学習する。

【鍵の管理】 秦和会 秦野病院 ⇒ 各グループの代表1名と教員の管理（鍵1本）
正史会 大和病院 ⇒ 各学生管理（カードキー）
厚仁会 秦野厚生病院 ⇒ 各学生管理（鍵2本）

3. スケジュール

別紙「精神看護学実習予定表」を参照すること。

4. 留意事項

- 1) 精神看護学実習に関する質問や不安などがある学生は、その都度、教員に声をかけること。
- 2) 実習内容の詳細は、精神看護学実習オリエンテーション時に説明する。
※不明な点については、担当教員に報告・連絡・相談を行い、指示をもらうこと。

5. 実習記録と提出方法

1) 実習記録

表紙1: ①実習評価表
②日々の体験記録
③事前学習の記録物（事前レポート）
④事後学習の記録物（課題レポート）

表紙2: ①出欠席表（グループリーダーのみ）
②実習計画表
③アセスメント用紙1
④アセスメント用紙2
⑤看護過程展開用紙
⑥プロセスレコード
⑦その他

2) 提出方法

K館1階階段下の実習担当教員が指定したBOXに実習最終日の翌日（土曜日）の15時までに提出する。

提出内容は、課題レポート及び最終日の日々の体験記録（該当学生のみ）を含めて、実習記録一式（評価表を除く）を提出する。実習記録物の綴じ方は、「表紙1」「表紙2」に記載されている【提出記録用紙】の順とする。

6. 実習施設・実習時間及び実習指導者

※各施設の実習指導者は、精神看護学実習オリエンテーション時に説明する。

1) 秦和会 秦野病院 8:00（集合）8:20～16:20

※実習期間のうち1日、下記の付帯施設に数名ずつ分かれ、実習を行う。【1週目：火曜日】

付帯施設：「デイケア」「訪問看護」「ジョブライフはたの」「就労移行支援事業所りんく」

2) 正史会 大和病院 8:00（集合）8:20～16:20

※実習期間のうち1日【1週目の火曜日又は水曜日】、1グループは病院付属の「デイケア」、もう一方のグループは「就労継続支援B型事業所エアリアル」にて実習を行う。

3) 厚仁会 秦野厚生病院 8:00（集合）8:20～16:20

※実習期間のうち1日【1週目の火曜日又は水曜日】、1グループは病院付属の「デイケア」、もう一方のグループは「就労継続支援B型事業所エアリアル」にて実習を行う。

4) NPO 法人若菜会 就労継続支援B型事業所エアリアル 8:50（集合）9:00～17:00

※大和病院及び秦野厚生病院にて病院実習を行っている2グループのうち、1グループが実習を行う。

（注）実習時間について、各施設の実習する病棟によって実習開始時間が異なる場合がある。その場合は、実習終了時間で調整することとする。

7. 交通手段

1) 秦和会 秦野病院：住所【秦野市三屋131】 電話【0463-75-0032】

①小田急線「秦野駅」北口バスターミナル

・3番乗り場：「秦12系統」運動公園・上河原経由 渋沢駅行き「塚原橋」下車。

※病院は目の前です。

・3番乗り場：「秦8系統、秦10系統」桜土手経由 渋沢駅行き「水無瀬橋」下車。

※水無川沿いの道路を上流に向かって歩き、約7分で右手に病院が見える。

②小田急線「渋沢駅」

・2番乗り場：「秦12系統」上河原・運動公園経由 秦野駅行き「塚原橋」下車。

※病院は目の前です。

③小田急線「渋沢駅」から徒歩で約30分です。

2) 正史会 大和病院：住所【大和市深見西3-2-37】 電話【046-261-0161】

①小田急線・相模鉄道「大和駅」から徒歩で約15分です。

3) 厚仁会 秦野厚生病院：住所【秦野市南矢名 2-12-1】 電話【0463-77-1108】

①小田急線「東海大学前」から徒歩で約 5 分です。

4) NPO 法人若菜会 就労継続支援 B 型事業所エアリアル：住所【海老名市国分北 1-8-24】

電話【046-233-2320】

①小田急線・相模鉄道・JR 相模線「海老名駅」から徒歩で約 10 分です。

8. 単位および実習評価

1) 単位：2 単位／90 時間

2) 実習評価

①東海大学医療技術短期大学の实習に関する細則により、実習日数の 3 分の 2 以上出席した者を対象とする。

②評価は、実習評価表に基づいて、学習目標の到達状況、学習態度、事前学習、記録類の提出状況、実習中の態度などの項目で実施する。

③中間面接（実習 1 週目金曜日）および最終面接（実習最終日）を学生、臨床指導者、担当教員の三者で実施する。【面接を実施していない者は、評価対象とならない】

※但し、出席停止等の状況がある場合には、個別の措置を講じる。

④総合評価は、自己評価（学生）・臨床指導者評価をふまえ、担当教員が行う。

⑤評価表の評価基準は以下の 3 段階とする。

・評価表の項目：I～IV 【 よい→3 点 】【 ふつう→2 点 】【 要努力→1 点 】

・評価表の項目：V 【 よい→4 点 】【 ふつう→2 点 】【 要努力→1 点 】

※総合評価は、S・A・B・C・D・Eで判定する。

⑥自己評価欄に自己評価の一部記載がなく、空欄のまま提出した者については、評価対象としない。

⑦事前学習及び事後学習のレポートは、自分の考え等を述べるものであるため、教科書等の引用がレポート全体の 1/3 以上を超えるものについては総合評価から 1 課題につき 10 点の減点とする。

精神看護学実習予定表

指導者名：

担当教員名：

KF 生 () G

学生氏名：

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
時間	事前学習、自己の振り返り提出	看護計画立案に向けた情報収集	看護計画立案に向けた情報収集	看護計画立案に向けた情報収集	看護の方向性の確認	計画に基づき看護実践する	計画に基づき看護実践する	計画に基づき看護実践する	計画に基づき看護実践する	看護実践及び実習の評価
15:00 ~ 16:00 ~	全体オリエンテーション (約1時間) 病棟オリエンテーション：受け持ち患者について説明を受ける	申し送り	申し送り	申し送り * アセスメント用紙1 確認 * 看護技術到達度記録 確認	申し送り 中間面接 (アセスメント用紙1・2を基に看護の方向性を確認) * 中間面接は一人30分程度。面接者以外は指示に従う。	申し送り * 看護過程展開用紙 確認	申し送り	申し送り	申し送り * 治療的な別れの看護過程展開用紙 確認 * 看護技術到達度記録 確認	申し送り ①グループ面接 ②記録の整理 ※日々の体験記録は不要※
	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
	患者との対話 情報収集 受け持ち患者決定	プロセスレコードの検討 病棟毎、火曜、水曜、木曜の範囲で実施する。実施方法は担当教員が実習の流れを考え、調整する。				中間面接 (アセスメント用紙1・2を基に看護の方向性を確認) * 中間面接は一人30分程度。面接者以外は指示に従う。				①グループ面接 ②記録の整理
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	治療的な別れに関するカンファレンス	カンファレンス	ミーティング 記録確認 清掃
	記録の整理	記録の整理	記録の整理	記録の整理	記録の整理	記録の整理	記録の整理	記録の整理	記録の整理	

- * 実習開始・休憩時間については、各実習施設の始業・休憩時間に合わせる。
- * 実習期間中デイケアもしくは就労継続支援B型事業所での実習を1日行う。また、実習後に必要に応じて合同カンファレンスを開催する。
- * プロセスレコードの検討は1週目の火曜、水曜、木曜の範囲で実施する。そのため、担当教員に相談し、日程及び方法を決定すること。検討時には予め参加人数分のプロセスレコード用紙を指定のコピー機にてコピーしておくこと（注意：記録提出時に他のメンバーのコピーも責任をもって綴じること）。
- * 中間面接時は、患者紹介と看護の方向性を学生が述べてから看護の方向性を検討する。アセスメント用紙2を指定のコピー機にて1枚コピーして持参する（中間面接後に返却するため、記録提出時には綴じること）。
- * 治療的な別れは、内容を看護過程展開用紙に記載し、実施及び評価も記入すること。なお、日程は2週目、木曜日及び金曜日とし、グループ面接等の時間と重ならないように調整を行うこと。
- * グループ面接はグループ毎に実施する。時間は教員が指定するため、確認をすること。（時間：1時間～1時間30分以内）。
面接内容は、①自己評価（患者紹介と看護の方向性と看護上の問題・行った看護・患者の反応とそこから考えたこと・学んだこと）②他者評価（グループメンバー、臨床指導者、教員）③他者評価の感想と今後の課題をメンバーが順に述べていく（グループメンバーは、事前に渡されたシールにコメントを記載して持参すること）。

実習計画表

週間実習目標	月 日 ()		月 日 ()	
	日々の目標			
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
	実習内容			
実習 週 / 週		全実習 週 / 週	学生氏名 :	受持患者 :

実習計画表

	月 日 ()		月 日 ()		月 日 ()	
日々の目標						
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
実習内容	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
実習 週 / 週		全実習 週 / 週		学生氏名 :		受持患者 :

情報とその意味 (解釈・分析)

生活行動 様式	
健康認識 健康管理	
呼吸・循環 体温調節	
栄養・代謝	
排泄	
活動・休息	
皮膚粘膜の 保全	
性・生殖	
感覚知覚 伝達	
自己像・ 自己実現	
役割・関係	
その他	

アセスメント用紙2 (対象の全体像)

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名



*関連図・図・絵などを用いて記載する

看護過程展開用紙

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名

日 情報 (初期データ・追加データ) 実施の事実・結果・対象の反応	日 アセスメント (実施の評価)	日 問題点	日 患者目標	日 具体策
			目標の達成状況	

プロセスレコード

日時： 月 日

学生氏名： _____

患者概要：

プロセスレコードをとった理由：

場面状況：

私が知覚したこと	私が考えたり 感じたりしたこと	私が言ったり 行ったりしたこと	分析・考察

分析・考察を通してどのような気づきが得られたか